

<仙台国税局長賞>

## 未来をつくる税金

福島市立岳陽中学校 3年 紺野 奏奈

税金というと、道路や学校、病院に使われているというイメージが強いかもしれません。しかし、私は最近「税金は未来をつくるためにも使われている」ということを知りました。たとえば、人工知能の研究や、宇宙開発のプロジェクト、さらには新しいエネルギーを生み出す研究などにも税金は使われています。こうした取り組みは、私たちが大人になったときに役立つだけでなく、さらにその先の世代の暮らしをも支えるものです。

私は小さいころから宇宙に興味があり、ニュースで「日本の探査機が小惑星から砂を持ち帰った」という話を聞いたとき、とてもわくわくしました。その裏には、多くの科学者の努力と同時に、税金の支えがあることを知りました。もし税金がなければ、こうした大規模な研究は進められなかつたでしょう。つまり税金は、ただ目に見える建物や施設を作るだけではなく、まだ形になっていない未来を支えているのです。

また、環境問題への取り組みも未来につながる大切な使い道です。地球温暖化を防ぐための再生可能エネルギーの開発や、電気自動車を広めるための補助金などには税金が活用されています。私は普段の生活で「税金」と言われても実感がわきにくいのですが、「未来の地球を守るために使われている」と思うと、急に身近なものに感じられます。

もちろん、未来のために税金を使うことは簡単ではありません。今すぐに利益を生むわけではなく、何十年も先にならないと

成果がわからないこともあります。そのため「なぜこんなことにお金をかけるのか」と疑問を持つ人もいるでしょう。けれども、誰かが未来のことを見て投資しなければ、私たちの社会は発展しません。税金はその大きな役割を担っているのだと思います。

私は将来、大人になって働き、税金を納める立場になります。そのとき「自分の税金が未来をつくる力になっている」と考えられるようになりたいです。宇宙開発や新しい技術の研究は、もしかしたら直接自分の生活に関係ないかもしれない。でも、それがやがて誰かの命を救ったり、地球を守ったりするかもしれない。そう思うと、税金はただの義務ではなく、未来への希望をつなぐものだと感じます。

税金は「今の暮らしを支えるもの」であると同時に、「未来をつくる力」でもあります。私はこれからもニュースや社会の出来事に目を向けながら、税金の新しい使い道に关心を持っていきたいです。そしていつか、自分が納める税金が、未来の誰かの笑顔につながることを願っています。